

麻疹については、2015年3月、WHOにより、日本が麻疹の排除状態にあると認定されましたが、その後も渡航歴のある患者や、その接触者からの患者の発生が散見されています。2016年8月頃より、広範囲の不特定多数の者に接触した事例が報じられており、今後も広範な地域において麻疹患者が発生する可能性があります。麻疹（はしか）を正しく知って、適切に予防しましょう。

麻疹（はしか）

かかる前にワクチンを！ かかった時にはまず電話！

（医療機関受診時に）



麻疹を正しく知りましょう

麻疹は「麻疹ウイルス」によって引き起こされる病気で、感染の約10日～12日後に、38℃程度の発熱やかぜ症状がはじまり、2～3日発熱が続いたあと（カタル期）、再び39℃以上の高熱とともに発疹が出現します（発疹期）。時には脳炎を発症するなど重症になることもあります。また、麻疹の感染により、全身の免疫力が低下するため、他の細菌などに感染しやすくなります。このため、肺炎や中耳炎などを合併することもあります。妊娠している方は流産や早産の原因ともなります。

麻疹は「麻疹ウイルス」が空中を浮遊し、それを吸い込むことで感染すること（空気感染）が多く、人から人へと容易に感染します。その他、飛沫感染・接触感染など様々な感染経路があります。感染力はきわめて強く不顕性感染（感染はしても発症しない＝症状がない）はほとんどなく、感染した90%以上の方が発症します。



麻疹にかからないために

麻疹ウイルスは非常に小さいので、マスクでの予防は難しくなります。唯一の予防方法は、ワクチン接種によって麻疹に対する免疫をあらかじめ獲得しておくことです。今まで麻疹にかかったことがなく、麻疹の予防接種を受けたことのない人は、予防接種が望まれます。麻疹を発症した場合にも、予防接種を受けたことがある、ないで症状の重さが異なります。

また、麻疹患者と接触してから3日以内なら、麻疹ワクチンで発症を防げる可能性があります。（すでに接種済みの方は必要ありません。）妊娠中の方は予防接種できません。麻疹流行時は外出を避け感染者に近づかないことが望まれます。

麻疹の定期予防接種（無料） ※対象年齢の方は、できるだけ早く接種しましょう！

1期：1歳代（1歳の誕生日から2歳の誕生日の前日まで）

2期：小学校入学前の1年間



麻疹にかかったら

医療機関を受診して診断を仰ぎましょう。明らかな麻疹の症状がある場合はもちろんですが、周囲で麻疹が流行しているときに風邪などの症状が出た場合にも、受診前に医療機関に電話でその旨を伝え、指示に従いましょう。

感染している場合は、病院で他の患者に感染させる危険があります。

自宅で負担のかからない生活を送り、発熱が下がってから、4日ほど経過してから外出するようにしましょう。

（周囲の人に感染させるおそれがありますので注意が必要です。）

和歌山市感染症情報センター

<http://www.kansen-wakayama.jp/>